中学校区におけるめざす子ども像
『自らを律し、自ら学び続ける子』

令和6年度 重点目標

「よりよく生きる」～学習したことを活かす～

- ① 単元後の子どもの変容を見通した指導計画の作成及びその効果検証
- ② 家庭学習及び家庭教育の推奨
- ③ 人権尊重の立場に立つ生徒指導
- ④ 通常学級と支援学級の連携強化

確かな学びの現状
 昨年度の全国学力状況調査では、国語も算数も基礎的な内容において一定の成果が見られた。国語においては専科教員、算数においては加配教員の影響が大きいと見ている。しかし、国語は読解力や作文力、算数においては発展的な内容には依然として大きな課題が残されている。どの教科、どの単元においても単元末を意識した授業を行い、研修全体会で効果検証する。児童一人ひとりが主体的・対話的で深い学びが実現できるよう、授業改善を行っていく。

豊かな心・健やかな体の現状
 全ての子どもたちが安心して、かつ楽しく登校できるよう、子どもたちに居場所を与え、さまざまなことに前向きに取り組めるように子ども主体で学校生活を進めていく。一方で睡眠時間の確保、朝食の喫食率、読書等といった基本的な生活習慣に関しては定着していない子どもの割合が多く、子どもを通して家庭への呼びかけを行う。また、スマートフォンの所有率も多く、使い方のルールを含めて子どもだけでなく保護者への啓発が必要である。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況(年度末)			
								自己評価	学校関係者評価		
確かな学び	授業改善	「よくわかる」授業の展開	●「わかる」授業づくりのために教員の研修	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている	全国学力学習状況調査・教員アンケート・保護者アンケートにおける肯定的評価	2学期末	○ 全国学力学習状況調査20	○	・教員は単元末を意識して授業を実践しており主体的に研修している。教員の主体性が、子どもたちにも影響し、主体的に学習児童が増えてきている。・必要な時以外は、立ち歩く児童はほほいさない状態になっている。	○	・教員の研修を参観した際に子どもたちが主体的に学べる授業の工夫がされている。 ・学習に向かう基本姿勢が形成されている。
			★授業規律の確立	授業中、私語や立ち歩きをさせないように指導している。		2学期末	○ 教員アンケート20	◎		◎	
			ICT機器の活用	日々タブレットを活用した授業づくりをしている。		2学期末	○ 教員アンケート10	○	・授業の中で場面に応じて活用するようになってきているが、使いこなすまでは至っていない。	○	・タブレット端末を活用した学習に前向きに取り組んでいると思われる。 ・物事を自分でしっかり考えて行動できる土台が形成されてきている。わからないときは子どもたち同士で教え合っている。
	学ぶ意欲の向上	学びに向かう力の育成	主体的・対話的で深い学びを実現する授業の展開	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。		◎・・・90%以上 ○・・・70%以上 △・・・40%以上 ×・・・40%未満	2学期末	△ 全国学力学習状況調査17	○	・自分の考えをもつことができることは増えてきているが、深め、活用がこれからの課題である。	○
家庭学習の積極的な取り組み			子どもは、自主学習に週1回以上取り組んでいる。	2学期末	△ 保護者アンケート3	○	6割の子どもが肯定的な回答であった。自ら取り組むということになると今後の課題である。	○			
豊かな心・健やかな学校	安全安心な学校	すべての子どもが生き生きと、安心してすごせる学校	すべての子どもが安心して登校	いじめ等で人が困っているときは、進んで助けている。	全国学力学習状況調査・堺市児童生徒・学習生活状況調査における肯定的評価	2学期末	◎ 全国学力学習状況調査12	◎	・たてのつながりが強く、高学年の子が低学年の子を助けてあげる場面が見られる。	◎	・休み時間になると高学年の子と低学年の子が一緒にいるなど仲がいい。困っている人がいたら、助けてという人間本来の姿を体現している。
			人の役に立つ人間になりたいと思う。	2学期末		◎ 全国学力学習状況調査15	◎	・優しい子が多く、困っていると助けてあげる子はいらる役に立っていると思う実感はないようである。	◎	・善い行いをしている子には、褒めて育てることが肝要。 ・あいさつは人間社会の基本であることをもっと指導してほしい。外部からの来校者に関してできていない。	
			主体的なコミュニケーションの向上	自ら進んであいさつすることができる。	◎・・・90%以上 ○・・・70%以上 △・・・40%以上 ×・・・40%未満	2学期末	○ 堺市児童生徒・学習生活状況調査2	○	・自らあいさつをする子が少しずつ増えてきている。	△	・子どもの健全な育成のためにも十分な睡眠を確保させるように保護者に協力を依頼してほしい。
			健やかな体の育成	低学年は21時までに、高学年は22時までに就寝する。	2学期末	△ 堺市児童生徒・学習生活状況調査18	△	養護教諭が取り組んでくれた「せいかつアンケート」により意識づけはできてきている。	△		
地域協働・情報発信	地域協働	地域行事への積極的参加	地域行事への積極的参加	自治会の活動内容を知っており、地域行事に積極的に参加している。	保護者アンケート・堺市児童生徒・学習生活状況調査における肯定的評価	2学期末	△ 堺市児童生徒・学習生活状況調査3	△	学校行事と調整し、教員一緒にも気軽に参加できるような地域行事を地域の方とともに考えていきたい。	△	・子どもだけが地域の行事に参加しているため、保護者への周知が必要。福祉主催の子ども館への参加が減少。
		情報発信	学校からの保護者や地域への情報発信	学校は、ホームページ等で子どもの様子を分かりやすく伝えている。		2学期末	○ 保護者アンケート10	○	・日によってホームページ更新に偏りがあるが、メール機能や紙面で保護者にお伝えしている。	○	・「八上だより」や学年通信、ホームページがリニューアルされて見やすくなり、わかりやすく伝えていただいています。

校長より(年度末)
 ・今年度、全市に向けて、よりよい校内研修の在り方について、本校の取り組みを発表した。先生が主体的になって研修を行っているため、研修のたびに気づきがあり、深まっている。それが子どもたちに反映され、子どもたちは、学びに向かう姿勢が高まってきている。今後は、それを実生活へと結びつけていきたい。来年度も引き続き、子どもたちの基本的な生活習慣の習得のため、家庭や地域とも連携して強化していきたい。それが目に見える形にも表れてくるように、取り組んでいきたいと考えている。

学校関係者評価者から(年度末)
 ・教室掃除や給食の配膳など、学校を運営するためのさまざまな役割を子どもたちが自らが担って行っている。子どもたちが協調性などの大切なことからの多くを学び身につけてきている。誰かが一人にならないよう、誘い合ったり進んで手を貸しに行く姿を多く見ました。先生方が愛情にあふれていて、児童たちがのびのびと学校生活を送っている様子がうれしいです。学校・家庭・地域で子どもを支えていきたいと思えます。